2026年
8
第42号
地域おこし協力隊新聞 SPOON
村外から移住した、私たち地域おこし協力隊が、檜原村の魅力を協力隊目線ですくい上げてお届けします。

白炭焙煎に合う一杯を探して…コーヒー豆選び

８月の広報で「サントスno.2（ブラジル）」の購入について紹介させていただきましたが、白炭焙煎の研究や魅力発信、コーヒーを通じた村内外の方々との交流に向け、次はこんなコンセプトでコーヒー豆を選んでいきたいと考えています。

【コーヒー豆選びのコンセプト】
①エコツーリズム：自然環境や生産者を守る取り組みを行っているもの。
②村内での差別化：村内のカフェや自家焙煎のお店で取り扱っていないもの。
③世界各地から：ほぼ栽培のない北米や欧州をのぞく、世界各地の大陸から。
購入を検討している国のコーヒーの特徴について、以下にまとめました！（松本）



コスタリカ（中米）

エコツーリズムの先進国として知られる国です。自然環境を守りながら高品質なコーヒーを生産する取り組みが進んでいます。小規模農家が多く、精製方法にもこだわっています。



エクアドル（南米）

農薬を使わず、コーヒーと一緒に数十種の植物を育てる、生態系を守る農法が根付いています。また、ガラパゴス諸島では、生態系の保護・自然遺産の保全と、コーヒーの栽培を両立させています。



ウガンダ（アフリカ）

化学肥料や農薬を使わず、自然の生態系を活かしたサステナブルな農法が奨励されています。生産量の４分の３以上を占めるロブスタ種の購入を検討しています。苦みの強い味わいの豆です。



東ティモール（アジア）

生産者の暮らしや自立した地域づくりを適正な取引価格で支える「フェアトレード」の取り組みが行われています。国に農薬が輸入された歴史がほとんどなく、オーガニックな土壌が特徴です。



パプアニューギニア（オセアニア）

肥よくな火山灰土壌で、農薬を使わず自然の恵みだけで栽培されているものが主流です。ゴロカ、という地域では、農園や工場の見学に加え、伝統文化に触れるツアーが開催されています。



右図のコーヒーベルトと呼ばれる地域で、ほとんどのコーヒー豆が生産されています。
気候変動を見据え、日本でもビニールハウスなどでのコーヒー豆の栽培が始まっています。

檜原の畑で育てた

にんにく栽培 成果報告

― 福地ホワイト六片を育てて ―

今年度のにんにく栽培を振り返り、各畑の様子や気づき・反省、来年度に向けた改善点をまとめました。
来年度以降、より良いにんにく栽培につなげていきたいと思います。



千足の畑で収穫したにんにく
土壌環境に恵まれ、比較的大きく育ちました。

1 栽培場所ごとの生育状況（比較）

千足 （10月23日植付）



生育が良く、玉も大きく育ちました。
水はけや日当たりなど、環境が良かったことが要因と考えられます。

小沢A （11月13日植付）



生育が思わしくなく、玉も小さめでした。

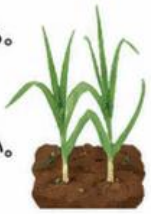
小沢B （11月13日植付）



千足と小沢Aの中間程度の出来となりました。環境や管理の違いが影響したと考えられます。

栽培を通して分かったこと（学び）

- 畑ごとに土壌環境や保水性・排水性が異なり、にんにくの育ちに大きく影響することが分かった。
- 土づくりの質が、収穫サイズや品質に直結する。
- 追肥や管理のタイミングの見直しが必要。
- 気候や害獣対策など、環境要因の影響も大きい。



来年度に向けた取り組み

1. 植え付け時期の見直し（10月上旬～中旬を目標）
2. 土づくりの改善（水はけ・土壌環境の改善）
3. 追肥管理の見直し（生育段階に合わせた施肥）
4. 栽培条件の比較検証を継続し、檜原の環境に適した栽培方法を確立する



今回の栽培では、課題もたくさん見つかり、檜原村の環境でにんにくを育てる可能性と改善点を確認することができました。来年度は、より品質の高いにんにくづくりに挑戦します！（髙橋）

地域おこし協力隊へのご依頼は
檜原村役場 むらづくり推進係
☎042-519-9556

協力隊各種 SNS は QL コードから！➡

編集後記

照りつける太陽がまぶしい8月。外出や屋外作業の際には、こまめな水分・塩分補給と帽子の着用を。熱中症に十分警戒し、どうか無理のない範囲でお過ごしください。（林）



地域おこし協力隊
林 陽浩
髙橋 政樹
松本 圭史